



年間を通した「公共」の指導計画例 —現代社会の諸課題ページを例に—

札幌創成高等学校 渡辺 祥介 (わたなべ・よしゆき)

—使用教材—
『高等学校 公共』



1 はじめに

2022年4月からいよいよ高等学校においても、新学習指導要領に基づいた授業が始まる。新科目「公共」の開始に向け、本誌においても全国の先生方による先進的な授業実践が数多く取り上げられてきた。これらの実践を参考に各校で準備が進められているであろう。しかし、こうした先進的な授業実践を例に実際に「公共」の授業を組み立てようとする際、筆者をはじめ、多くの教員にとってつまずきの石になるのが「授業は1年間続く」ということである。一回だけ優れた授業実践をまねて授業をすれば終わりというわけにはいかない。1年間の年間計画を作り、観点別学習状況の評価方法や評価規準を定める…等していかなくてはならない。

本稿では、「公共」の経済単元を取り上げ、『高等学校 公共』（以下、教科書）の「現代社会の諸課題ページ」を軸にした授業例を提案する。その際、筆者の勤務校における「公共」の指導と評価の年間計画作りや観点別学習状況の評価の検討から順を追って、1年間続く授業の中でどんな位置づけにある授業なのか、という観点から紹介したい。本稿で紹介するのは、至って普通の学校の平凡な教員である筆者が、試行錯誤しながら新科目「公共」にTRY!（これは本校の合言葉だ）していく実践である。さほど先進的でもなければ、学習指導要領などへの理解もこれから深めていくうえでの試みであることをお断りしておく※1。

2 どんな学校での実践なのか

まず筆者の勤務校のプロフィールを紹介したい。本校は札幌市内にある1964年設立の男女共学の私立普通科高等学校。生徒数は1000名程度である。都市部にあって通学しやすく、生徒は市内外から入学してくる。進路

別に3つのコースを設置しており生徒の学力の幅はかなり広い。進路は7割が大学進学だが、就職する生徒も1割程度いる。2021年度入試合格実績（現浪計）は、国公立大は、小樽商科大、北海道教育大、室蘭工業大、弘前大、秋田大、釧路公立大、公立千歳科学技術大など15名、私立大学は、立教大、中央大、北海学園大、北星学園大、北海道科学大などに延べ201名が合格している。ICTの導入は進んでおり、生徒1人1台端末は実現済み（iPadを持たせている）で、コロナ休校でのオンライン授業も比較的スムーズに実施できた。

3 「公共」を2022年度から始めることになった!

さて、こんな本校で新学習指導要領に基づく教育課程が編成されたのは、2021年度に入ってからである。「公共」は1年生で2単位の設定となった。そこから教科書選定、さらには観点別学習状況の評価の検討と慌ただしく進むこととなった。

教育課程が編成されるまでは、社会科の教科内では「共通テストが「公共・政治・経済」「公共・倫理」といった科目になるなら、実質「政治・経済」や「倫理」をやるしかないのでは?」等、新しい科目に対して前向きとはいえない声も少なくなかったが、そうした声は教育課程が実際に決まると立ち消えとなった。

というのも、教育課程編成の際によくある教科間の単位数の綱引きの結果、1年生で「公共」を履修後、文系を選択した生徒は、2年、3年と「政治・経済」を継続して履修することとなるため、受験対策の時間が十分確保でき、また1年生に「公共」を設置したことで、中学校3年生での公民的分野からの接続も意識する必要があるからだ（図1）。

もともと1年生では「歴史総合」と「地理総合」を設

※1 新学習指導要領において「公共」で求められる学習内容や新版教科書の活用例については『ChiReKo』2021年度1学期号の「授業研究 公民 「公共」で教科書はこう変わる」に詳しいので参考にしてほしい。

教科	科目	標準 単位	1 年			2 年						3 年					
			S 選抜	A 特進	特進	S 選抜	A 特進	特進	S 選抜	国文	国語	私文	私理	看護	医療		
地理歴史	地理総合	2				2											
	地理探究	3							③	③	③	③	③	③	③		
	歴史総合	2				2											
	日本史探究	3							③		③		③				
	世界史探究	3							③								
	地理研究	*							③		③		③				
	日本史研究	*							③		③		③				
	世界史研究	*							③								
公民	公共	2	2														
	倫理	2				②											
	政治・経済	2				②		2		2		③		③	③		
	倫理演習	*							②								
	政治・経済演習	*							②		2		3				

S 選抜：難関大を目指す。 A 特進：部活と学習を両立して国公立大を目指す。 特進：大学・専門学校など多様な進路に対応する。 *：学校設定の科目。 ② ②は選択科目を示す。

図1 本校の教育課程（地歴・公民科のみ）

置しようと考えていたのが、「公共」をやることになった
うえに、上記のような科目の設定となり「こうなったら
1年生の「公共」2単位は、思い切って「公共」っぽい
ことをやろう！」と教科内の雰囲気は一変。教育課程の
編成に続く、教科書選定や指導と評価の年間計画の設計
もその方向性で議論された。学習指導要領が変わっても、
現在自分たちの授業で行っているさまざまな取り組みや
観点別評価は十分使える。「新しいことをやらなくては
いけない」ではなく「今やっていることを組み替えれば
できる」という考え方で新しい学習指導要領に臨もうとい
う前向きな声が大勢を占めた。

さて、年間計画の設計にあたって、まずは「公共」の
学習到達目標を設定し、評価の観点を決定する必要がある。
本校では『「指導と評価の一体化」のための学習評
価に関する参考資料（高等学校編）』（国立教育政策研究
所）などを参考にして作成した（図2）。

次に、単元や題材など内容のまとまりの中で、学習内
容と評価方法を設定しなくてはならない。評価方法は、「**知
識・技能**」については、順当に4回の定期考査と小テス
トを評価の重点とした。「**思考力・判断力・表現力**」につ

■目標

人間と社会の在り方についての見方や考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質や能力を育成します。そのために、現代の諸課題について考察すること、判断することにつながる理論や概念を理解し、それを適切かつ効果的にまとめる技能を磨きます。また、現代の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的かつ多角的に思考し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、考えたことを表現する能力を磨きます。そして、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての意識を深めます。

■観点別評価の規準（科目名）

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の規準	- 現代の諸課題を捉え考察し判断するための手掛かりとなる理論や概念について理解している。 - 現代の諸課題を示す諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、その情報をまとめている。	現代の諸課題の解決に向けて、公共的な空間における基本的原理を活用し、事実を基に多面的かつ多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを表現したりしている。	- よりよい社会の実現を視野に、国家および社会の担い手として現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 - 現代の諸課題について主体的に解決しようとする過程を振り返り、自己評価し、それを基に自らを改善しようとしている。

図2 「公共」の目標と評価規準

評価の観点	評価の方法						観点別評価の評価区分
	定期考査	小テスト	パフォーマンス課題	振り返りシート	提出物ノート・宿題など		
知識・技能	◎	◎	○				A B C
思考力・判断力・表現力	○		◎	○			A B C
主体的に学習に取り組む態度		○		◎	◎		A B C

◎評価の重点とします。 ○評価の参考とします。

図3 観点別評価の方法

学習内容	評価規準
第2章 私たちと政治 第2節 国際政治の動向と平和の追求 第3章 私たちと経済 第1節 市場経済のしくみ 第2節 豊かな社会の実現 第3節 国際経済の動向と格差の是正	【知識・技能】 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけている。 ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。 ・企業のはたらきと社会的責任について理解している。 ・市場経済の機能と限界、金融・財政の役割、社会保障、経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・現実社会の諸課題について、事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現実社会の諸課題について、主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。
後期中間考査	

図4 年間計画（前期期末～後期中間考査まで（10～12月））

いては定期考査でそれらを問う論述問題を必ず出題して
評価の参考とするとともに、グループでの話し合いや発表
する場面を作り、振り返りシート等で自己評価・相互
評価させることとした。「**主体的に学習に取り組む態度**」
は振り返りシートでの自己評価・相互評価を活用すると
ともに提出物等の状況も評価の重点とする（図3）。

前期末と学年末に5段階の評定を付けるので、「前期
中間考査まで（4～6月）」「前期中間～前期期末考査ま
で（6～9月）」の時期と、「前期期末～後期中間考査ま
で（10～12月）」「後期中間～学年末考査まで（12～
3月）」の時期のそれぞれに3観点を評価する場面が必要
となる。つまり、グループでの話し合いや発表する場
面、振り返りシートなどの取り組みを、単元や題材など
内容のまとまりの中でうまく実施する必要がある。そこ
でまず4回の定期考査の際に、振り返りシートによる自
己評価・相互評価を実施することとした。これにより定
期考査ごとのタイミングで「知識・技能」と「主体的に
学習に取り組む態度」は評価可能となる（図4）。

次に、「思考力・判断力・表現力」を評価するグルー
プでの話し合いや発表する場面をどのように配置するか
を考えるために、単元や題材など内容のまとまり（いわ
ゆる13の主題を全部扱う）を具体的に教科書での展開
を想定しながら設定していった（次頁図5）。ここで
は教科書の「現代社会の諸課題ページ」を授業のまと
まりごとの「問い」として活用することにした。

基本的な授業の進め方のイメージは、

『導入』：「諸課題ページ」を活用して「問い」の提示
→個人で「問い」の答えを考える→グループで共有な
どを行う（1時間程度）

大項目	単元	単元を貫く問い	教科書				授業のまとまりごとの問い	時数 (計70)	考查
A	公共の扉	公共的な空間をどのようにつくってあげばよいだろうか	第1部 私たちが つくる社会	第1章 社会の中の私たち			公共空間とはどのような空間だろうか？	3	前期中間 考查まで
				第2章 思想から学ぶべきもの			正しい嘘はあるか？	3	
				第3章 私たちの社会の基本原則			女性議員の枠を確保するのは「公正」か？	4	
B	主として 法にかかわる 事項	法的主体などとしてよりよい社会の形成に参画することに向けて、私たちは法をどのように捉えればよいだろうか	第1章 私たちと法	第1節 法の意義と 司法参加	1	社会規範と法	同性婚は法的に認められるべきか？①	1	前期末 考查まで
					2	私たちの生活と法		1	
					3	契約の考え方	入学を辞退したら、入学金や授業料は返還されるか？②	2	
					4	消費者の権利と責任		2	
					5	司法の役割	死刑制度は続けるべきか？③	1	
					6	刑事裁判とその課題		2	
	主として 政治にかかわる 事項	民主政治を推進するために私たちはどのような責任を果たすべきか	第2章 私たちと政治	第1節 民主社会と 政治参加	1	政治と権力	政権には、どのような政党の組み合わせが望ましいか？④	1	
					2	議院内閣制と国会		1	
					3	権力分立と行政の役割		1	
					4	地方自治の役割		1	
					5	政党政治とメディア		1	
					6	選挙制度とその課題		3	
	主として 経済にかかわる 事項	持続可能な国際社会を形成するために私たちは何ができるか	第2部 社会の しくみと 諸課題	第2節 国際政治の 動向と平和 の追求	1	国家と国際法	内戦状態の国に国際社会は介入すべきか？⑤⑥	1	
					2	日本の主権と領土		1	
					3	平和主義と日本の防衛政策		1	
					4	これからの日本の安全保障		1	
					5	国際連合の役割と活動		2	
					6	紛争とテロリズム		2	
					7	核兵器と軍縮の課題		3	
					8	国際協力と日本の役割		3	
					9	SDGsのどの目標を優先して協力・支援すべきか？⑦		3	
	主として 経済にかかわる 事項	活発な経済活動と個人の尊重をともに成り立たせるにはどうしたらよいのか	第3章 私たちと経済	第1節 市場経済の しくみ	1	経済とその考え方	図書館の運営を民間に任せるべきか？⑧	1	後期中間 考查まで
					2	市場のメリットと限界		2	
					3	企業の目的と役割		2	
					4	金融の役割		1	
					5	政府の役割と財政の機能		2	
					6	日本の財政の課題		1	
					7	経済の変動		2	
					8	産業構造の変化と職業選択		1	
					9	中小企業と農業		1	
C	持続可能な社会 づくりの主体と なる私たち	個人で設定した問い	第3部 持続可能な社会の実現に向けて	第2節 豊かな社会 の実現	1	労働者の権利	これからの社会、働くならどのような形態か？⑪⑫	1	
					2	雇用と労働に関する課題		2	
					3	社会保障の役割と意義		1	
					4	社会保障制度の課題		2	
					5	どのような公的年金制度が望ましいか？⑩		1	
					6	社会保障制度の課題		2	
					7	国際経済のしくみ	国内工場の海外移転にどう対応するか？⑬	1	
					8	国際経済の枠組み		1	
					9	地域経済統合		1	
					10	グローバル化と自由貿易協定		1	
					11	国際経済の変化と課題		3	
					12	経済格差の是正		3	
					第3節 国際経済の 動向と格差 の是正	1	課題の設定	3	学年末 考查まで
						2	情報の読み取りと整理	3	
						3	課題の探究	3	
						4	探究結果の表現	3	

図5 学習指導要領・教科書の章立て・授業のまとまりの計画

『展開』：通常ページで「問い」に答えるための知識を
チョーク＆トークで授業する（2～3時間程度）

『まとめ』：「問い」の答えをグループで話し合い、発表で共有→自分の「問い」に転換、話し合いや発表について振り返りシートを用い、ルーブリックに基づいて自己評価や相互評価する（1時間程度）

と想定している。本校では、幸い「公共」は高1での設置なので、中学3年での学習内容がある程度生徒の頭の中に残っていると期待できること、また、生徒一人一人にオンライン学習サービス※²のアカウントを持たせていることから、反転学習的な進め方※³をすることで『展開』部の授業時間を節減し、『導入』や『まとめ』の時間数を確保したい。

また、後期中間調査後の時期（1～3月）に学習指導要領の大項目「C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち」にあたる教科書の第3部で探究学習をすることを考え、それまでの学習において「問いを立てる」「資料を読み取る」「図表を作る」「主張をまとめる」「レポート

トを書く」等の力を身に付ける訓練をさせたいとも考えている。「問いを立てる」は主に『導入』で、「資料を読み取る」「図表を作る」は『展開』で、「主張をまとめる」「レポートを書く」は『まとめ』でというように、授業展開の中で身に付ける訓練をしていく。

4 実際の授業展開を考えよう！

では、具体的に教科書 p.164「現代社会の諸課題 図書館の運営を民間に任せるべきか？」の授業例を紹介したい（図6）。実施する時期は前期期末調査後から後期中間調査の期間（10～12月）を想定している。3時間で標題の「問い」を通じて主題「市場経済の機能と限界」について学んでいく。

1時間目『導入』：「問い」の提示→事例研究→資料読解→個人で「問い」の答えを考える→グループで共有などを行う。事例研究では教科書の例だけでなく各自のICTで同様の事例を検索させることなどもできる。「日

※2 リクルートの「スタディサプリ」や駿台教育研究所の「賢者＋V」。

※3 自宅で次時の内容の動画視聴→小テストで理解度、定着度を確認。重要事項のみ解説するなど。

現代社会の諸課題 市場の機能と限界について考える **図書館の運営を民間に任せるべきか？**

【136】 p.136-140では市場経済の機能と限界について学習した。これまで図書館の多くは地方自治体のみで運営してきた。しかし、近年では民間企業のノウハウを生かして効率化を図るため、図書館の運営を民間企業やNPO法人などに任せる動きが出てきている。図書館の運営を民間に任せるべきかどうか、**希少性と効率・公正**に照らして考えてみよう。

日本における図書館運営の現状 **事例研究** **資料読解**

● **民間企業に運営を任せるとする公立図書館** (神奈川県 海老名市) 1階が書店・カフェが併設された。開館時間が伸び、座席数が増えるなど利便性が向上し、新規登録者数や貸出冊数が大きく増えた。一方、従来の図書館とは異なる分科に戸惑う声や、料理本が多すぎるなど、運営基準を問難視する声もある。

● **新図書館建設に反対する市民** (2015年 愛知県 小牧市) 小牧市では新図書館を建設し、民間企業に運営を任せようとした。しかし、利益を出すために人員費が削減され、サービスの低下が懸念されるなど、住民の反対が強く、計画は中止となった。

図書館の運営を民間に任せることに関するさまざまな意見 **思考ツール**

A. の意見 **B. の意見**

民間は利益を上げるために、人員費を削減する可能性がある。高い専門性を持つ職員を退職し、調べもの相違などのサービスの質が低下したことを理由に、再び地方自治体の運営に戻した図書館も少なくない。

運営を民間に任せている図書館の数は増加傾向にある(2018年度時点で約19%)。開館時間の延長やカフェの併設など、サービスの拡充による利便性の向上が期待できる。

● A・Bには、「賛成」、「反対」のどちらが入るか。
● 次の公共施設の運営を民間に任せることについて、あなたはどうか考えるか。賛成・反対の座標軸に位置づけよう。
1) プール 2) 公園 3) 博物館 4) 児童館 5) 浄水場 (ヒント: 希少性と効率、公共施設の効率化の是非、公共性)

ステップ1 論点を確認しよう
● **図書館の役割と現状**
図書館は、国民の教育と文化の発展に寄与する役割を果たす、**公共性の高い文化施設**である。しかし、厳しい財政状況や人口減少の進行により、地方自治体だけで図書館を維持し続けることが難しくなっている。財源が限られるなか、公的なサービスに市場原理をどこまで適用すればよいのだろうか。

ステップ2 あなたはどう考える？
● **図書館の運営を民間に任せるべきか？**
民間が図書館を運営することで、サービスの拡充が図られ、利便性が向上した例もあれば、調べもの相違などのサービスの質が低下したことを理由に、再び地方自治体の運営に戻した例もある。図書館の利用は無料だが、その運営費用は税金として私たちも負担している。図書館の運営を民間に任せるべきか、考えてみよう。

図6 『高等学校 公共』 p.164

本における図書館運営の現状」を読解したうえで、「思考ツール」の「Aの意見」「Bの意見」の穴埋めをさせ、自分はどうか考えるかを選択させ、ペア、グループ、クラス全体等で共有させる。この際、本校ではLoiLoの授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」(以下、ロイロノート)等のICTを活用することが多い。意見ごとに提出させるカードの色を変えさせるのは、教員がプロジェクター等で黒板に投影する際に、視覚的にお互いの意見の相違などが把握しやすいからだ(図7は別の単元で実施した例である)。

最後に、論点の確認と次時まで各自が視聴すべき動画、読んでおくべき教科書のページ(p.136~145)を指示する。

2時間目『展開』: 前時の「問い」に答えるための知識の確認。まず各自が指示した動画や教科書の内容を理解しているかを確認するために、小テストを実施する。教科書のQRコンテンツの**一問一答**が活用できる。特にポイントとなる部分はチョーク&トークで解説したほうがよいだろう。ただしいわゆる「授業プリント」の類はロイロノートで配布するので「紙」を使用することはない。

3時間目『まとめ』: 前時で学んだ「市場経済の機能と限界」に関する知識を活用して「問い」に答えを出す。その際、ワークシートをロイロノートで配布し各自で記入のうえ、グループでそれぞれの意見を共有させたい。

性善説性悪説

A 無記名 **回答共有中** **一括返却**

悪の根源には善があるけれど、善の根源には悪はないと思うから **育つ環境次第で色々変わってくると思う。** **性善説が正しいならば、犯罪は起こらないはずだ。生まれた時から良い性質を持っているのなら悪いことは悪いこととわかっているはずだから犯罪は起こらない。人はもともと悪い性質だから犯罪が起こる。教育などにより悪いことに気づき犯罪は減る。**

まず、その人が善というのには法がある前提の話だと思う。法がなければ、人を殺しても、物を盗んでもそれが悪いことだとはならず、普通のことのようになると思う。また、生まれながらにして善き者もいない。最初は善も悪もなく、中立即ち無であると思う。善の者を作るには、育てる環境が影響してくると思う。 **理由: 孟子の話に納得したから** **利益があるから、またそうしなければならぬ理由があるから悪いことをするだけで、心の底から好きでやっている人はいないと思う** **生まれた瞬間から悪い人はいないと思うけど、その後の環境で悪い人になることはあると思うから。もともと悪い人はどんなに頑張っても根っからの善い人になることはないと思うから。**

性善説…生まれながらに善いのだとしたら、生まれただけの子供が物を壊したりアリの踏んだりする。性悪説…生まれながらに悪だとは判断できないから。 **善い悪いの基準がそもそも人間が勝手に作ったものだから。今の世界では「殺人は悪いこと」であるが、歴史や統治者が違えば「殺人は善いこと」になり得る。** **何か事件が起こったら警察のように犯人探しを始める人がいるように、性善説の「善悪の心」があるから。生まれただけの赤ちゃんを悪だと思うことはよほどな理由がない限りあり得ないと思うから。**

性悪説の理由 **性善説の理由** **性善説と性悪説**

子供は正直だから思ったことを口に出したり、虫を殺したりと様々な場面で残酷だから。 **人間は善と悪に分けられるほど極端な生き物ではないと思うから。弱くて無知な赤ちゃんは善なの？ 悪なの？** **小さな子供は母親が違う人と仲良くしていると嫉妬する。つまり生まれながらにみんな性格が悪い。そこから努力をして、寛容な心を手に入れて素晴らしい人間を目指す。**

生まれれば自分勝手に周りに気を使えないから **誰かに褒められたいから人を助けたい**

図7 ロイロノートでの意見集約例(性善説と性悪説について議論した際のもの)

5 おわりに

さて、ここまで「公共」の経済単元を取り上げ、教科書の「諸課題ページ」を軸にした授業例を提案してきた。その授業に至るまでに年間計画、評価の方法、評価規準も一体で計画する必要があることも強調してきた。また、そもそも本来は3年間の教科のゴール(目標)から逆算して「公共」の目標は定まるし、教科で勝手に決めるものではなく、学校の教育目標から決まるものであろう。また学力差があるコースを設置している学校であれば、コースごとに目標も変わってくる。こう考えていくと、授業内容や評価規準、評価方法の決定には「教科内・教員間での意思統一」が今後かなり重要になってくるだろう。ICTの活用においても教員間で差が生じないように教科内でフォローするなどの体制も重要だ。

本稿を通して、一教員が新科目「公共」に前向きに取り組んでいる様子を紹介することで、新しい取り組みをしていこうと奮闘している先生方に少しでも勇気を持ってもらえれば、幸いである。

本授業展開例のワークシートは帝国書院ウェブサイトをご覧ください。